

曲目解説

研究熱心な各校顧問の選曲により、毎回充実したプログラムで注目されているジョイントコンサート。ついに第20回記念演奏会を迎えました！。今回も話題作が目白押しの熱いプログラムでお送りします。毎年この解説を楽しみにしている人も居るとの噂です。今回も張り切って書きますよ！。お楽しみに。

各校演奏

夢への冒険

Adventure of a Dreams

福島弘和は吹奏楽を中心に作曲活動を行っている。大編成向けの曲から、小編成向けの曲まで幅広く手掛けており、学校バンドの指導者の立場から見ても大変頼もしい。作品も高く評価されており、各種演奏会やコンクールで聴く機会も多い。今回演奏する「夢への冒険」は、元々は混合アンサンブル8重奏曲として作曲されたものを、吹奏楽小編成向けに書き換えて作られた。2008年出版。前半はロマンティックに歌われ、後半はジャズ風な軽快な曲となる。

今回の演奏会とは直接関係ないが、福島氏と言えば、2007年作曲「プリオシンコーストの幻想」は、松戸矢切高校吹奏楽部の依頼で作曲されたものであることを付け加えておきたい。

福島弘和

Hirokazu Fukushima (b.1971:日本)

そよ風のマーチ

March "A Gentle Breeze"

松尾善雄は浦安市在住の作曲家である。全日本吹奏楽コンクール課題曲の作曲者としても知られ、1987年度以降、現在までに7曲が採用されている。課題曲公募のコンテストである朝日作曲賞で最優秀賞を2回受賞するなど、優れた実績を持ち、吹奏楽界での知名度も高い。ちなみに、全日本吹奏楽コンクール(A部門)は、規定の12分以内に課題曲・自由曲各1曲を演奏して競われる。今回演奏する「そよ風のマーチ」は1991年度の課題曲4曲のうちの1曲で、同年夏には多くの団体により演奏された。作曲年等の記載はないが、多くの課題曲と同じく、コンクール前年の作曲であるならば1990年作曲。これは、第20回を迎えた「Joint Concert」の記念すべき「第1回演奏会」と同年の出来事で何とも縁起が良い。軽快なマーチをお楽しみに。

松尾善雄

Yoshio Matsuo (b.1946:日本)

ラシーヌ雅歌

Cantique de Jean Racine

フォーレは19世紀から20世紀にかけて活躍した作曲家で、美しい旋律や宗教的色彩などの作風で知られる。この「ラシーヌ雅歌」は、1863年に当時18歳だったフォーレが、音楽学校の卒業作品として作曲した合唱曲で、17世紀フランスの劇作家ラシーヌの宗教的な詩に基づいている。雅歌とは旧約聖書の一節を歌うものである。優しさに満ちた響きがとても心地良い。

ガブリエル・フォーレ

Gabriel Faure (1845-1924:フランス)

ジュビラント序曲

A Jubilant Overture

吹奏楽界の巨匠、リード博士が他界したのは2005年。生涯で5つの交響曲、7つの組曲など大作も含めて多くの優れた吹奏楽曲を作曲、近代吹奏楽の発展への貢献は計り知れない。

その代表作の多くが1970年代以降に作曲されたが、この「ジュビラント序曲」は1969年作曲。まさにリードのスタイルが完成されつつある時期に作られた。華やかな主部と美しい旋律の中間部という構成は、その後の多くの作品に活かされている。タイトルの「ジュビラント」は「歓喜に満ちた」という意味で、春の息吹を表現した曲であるとリード自身が説明している。

アルフレッド・リード

Alfred Reed (1921-2005:アメリカ)

ダビデの栄光

Glory of David

広瀬勇人

Hayato Hirose (b.1974:日本)

広瀬勇人はレメンス音楽院大学院(ベルギー)において、日本でも人気の高い作曲家ヴァンデルロースト(今年6月に何と市川西高校に来校！)のもとで学んだ。意欲的に新作を発表しており、その作風はドラマティックなものが多い。今回演奏する「ダビデの栄光」は、旧約聖書に書かれた古代イスラエルの王、ダビデの物語に着想を得て作曲された。2008年作曲。

曲は序奏を経て3つの部分から成る。(1)幼少のダビデが神の力を得る。(2)イスラエルの王が悪霊を追い払うためダビデを迎える。その美しい豎琴に王は癒され、ダビデは周囲の信頼を得る。(3)押し寄せる敵の軍勢に対して、ダビデは知恵を絞って勝利を得る。ダビデは実績を重ね、やがて王の地位へと登りつめイスラエルを統治する…。といった内容である。

子供のマーチ - 丘を越えて彼方へ

Children's March "Over the Hills and Far Away"

パーシー・グレインジャー

Percy Grainger (1882-1961:オーストラリア)

グレインジャーの牧歌的な作風は、広大なヨーロッパを連想させるが、実はオーストラリア出身。10代でヨーロッパへ渡り、30代でアメリカ合衆国の市民権を取得、79歳で亡くなるまで終生を過ごした(墓地はオーストラリアにある)。若い頃からピアノの才能に秀でており、10歳で初の演奏会を開いたとされる。1907年(25歳)にノルウェーの作曲家グリーグを訪ね、彼の自国の音楽を大切にすることに触発され、民族音楽、とくにイギリス民謡に興味を持つようになった。今回演奏する「子供のマーチ」は、アメリカ移住後、1916年秋から作曲を始め、1919年に完成した。ピアノを得意としたグレインジャーらしく、当時の吹奏楽曲では珍しく、ピアノに重要な役割が与えられている。親しみやすいメロディのコンサートマーチである。

交響曲第2番「キリストの受難」より

La Passio de Crist - Symphony No.2 for Symphonic Band Ferrer Ferran (b.1958:スペイン)

第1楽章 降誕、虐殺、洗礼

フェレル・フェラン

スペインも吹奏楽が大変盛んで、優秀なバンドや作曲家を多数有する。近年の吹奏楽曲の作曲家としては、フェランの活躍が目ざましく、その作品は日本でも演奏される機会が多い。

キリストの生涯については、これまでも多くの音楽で描かれてきたが、フェランは吹奏楽でこれに挑んだ。交響曲第2番「キリストの受難」(2003年出版)は、キリスト誕生から磔刑までが描かれた、全3楽章、演奏時間40分のドラマティックな大作である。今回演奏するのは第1楽章で、キリストの誕生から、ヘロデ王による幼児虐殺、洗礼式までが描かれている。

OBバンド演奏

「また一緒に演奏したいね！」そんな気持ちから去年結成されたOBバンド。今年は第20回を記念して再びジョイント卒業生達が集まりました。音楽を続けている人も、久しぶりに楽器を吹く人も、単なる同窓会バンドではなく、本当に素晴らしい音楽を作りたいと思うメンバーが集まりました。ちょっと大人の演奏をお楽しみ下さい。(今回のOBバンドは過去7年間、総勢50名の卒業生が集まって結成されました)

演奏曲目 **アルセナール** (J.ヴァンデルロースト) ...コンサートマーチ(1995年作曲)
エル・カミーノ・レアル(A.リード) ...リードの名曲です(1985年作曲)

指揮：井口信之輔 2006年3月市川西高校卒(洗足学園音楽大学卒)

1年生合同バンド

ガムサッカーズ・マーチ

The Gum-Suckers March

グレインジャーの経歴に関しては前述の通りである。今回演奏するマーチは、最初ピアノ独奏曲として作曲され、1916年に管弦楽版(あるいは吹奏楽版?)が完成した。この曲自体は比較的演奏される機会が多いため有名だが、4曲構成の組曲「In a Nutshell」の一部であることは、あまり知られていない。色々調べてみると、「ガム」はユーカリの葉、「サック」は吸うの意味で、「ガムサッカーズ」は、「ユーカリの葉を吸う人」という意味になるが、これは作曲者の出身地であるオーストラリア、ビクトリア州での白人の愛称らしい。あまり意味を深く考える必要はなさそうだ。ピアノが重要な役割を持つ、軽快なコンサートマーチである。

パーシー・グレインジャー

Percy Grainger (1882-1961:オーストラリア)

ヴェロシティ

Velocity

シェルドンと言えば、比較的簡単な書法で書かれながら高い効果が得られる、教育的配慮された中級向けの作品群が良く知られている。これらは日本でも学校バンドにとって重要なレパートリーとなっており、シェルドンの吹奏楽界での知名度は高い。ところが、ここ数年、これまでの作風とは異なる、やや難度の高い作品も手掛けるようになり、注目されている。

今回演奏する「ヴェロシティ」(速度)は2006年作曲。そのようなシェルドンの新たな一面を見せる曲である。短い曲ながら目まぐるしく変化していく。躍動感、荒々しさ、優雅な飛行、スリル、強烈なリズム…。多彩な表情が詰め込まれた曲である。振り落とされないように！

ロバート・シェルドン

Robert Sheldon (b.1954:アメリカ)

交響詩「母なる北方の大地 - すべての生命を讃えて」八木澤教司

Symphonic Poem "Northern Mother Earth - Praise for All Living Things"

Satoshi Yagisawa (b.1975:日本)

八木澤教司さんは市川市在住の若手作曲家で、管弦楽曲、吹奏楽曲、アンサンブル曲など手掛けるジャンルは幅広い。次々と新作を発表しており、創作意欲は衰えを知らない。また、ジョイント各校の顧問とも親交があり、今回の第20回演奏会のために、全国を飛び回る多忙な仕事の合間に新曲を書いていただくことができた。アンコールで演奏します。お楽しみに！

今回演奏する「母なる北方の大地」は、2010年3月に初演が行われたばかりの新作である。美しくも厳しい北海道の自然を描写するとともに、そこで生活する人々や動物、植物などの全ての生命を讃えた大曲である。連続して演奏される4つの楽章によって構成されている。

- ・第1楽章【夏】道南(函館)...眩しい緑で染まる夏の大地。動物や植物たちの生命の躍動と謳歌。
- ・第2楽章【秋】道東(帯広)...鮮やかな紅葉。しかし寂しさのある秋。哀愁に満ちた叙情詩。
- ・第3楽章【冬】道北(旭川)...生命を否定するかのような厳しい冬の寒さ。生命は冷たい土の下で力を蓄える。
- ・第4楽章【春】道央(札幌・千歳)...春の光が雪を溶かす。すべての生命の賛歌によって新たなる夏が導かれる。

第20回ジョイントコンサート練習記録

10月6日(水) 打ち合わせ [顧問・生徒代表] (船橋西高校)

10月31日(日) 第1回 1日練習

11月14日(日) 第2回 1日練習

11月21日(日) 第3回 1日練習

12月15日(水) 第4回 午後練習

12月17日(金) 第5回 午後練習

12月18日(土) 第6回 1日練習

12月19日(日) 第7回 1日練習

12月20日(月) 第8回 午後練習

12月23日(祝) リハーサル・本番 (市川市民会館)

練習場所

・1年合同バンド：松戸秋山高校

・2年合同バンド：市川西高校

<http://ginzi.blog.ocn.ne.jp/> (市川西)

<http://darkgreen.tea-nifty.com/> (白井)

<http://ameblo.jp/vivamutsumi/> (松戸六実)

吹部関連のブログ(必見！)

2年生合同バンド

ハリソンの夢

Harrison's Dream

グレイアムは、母国イギリスで盛んな金管バンド(金管楽器 + 打楽器)を中心に作曲活動を行っており、その多くが吹奏楽編成にも書き換えられて重要なレパートリーとなっている。

1707年の英国海軍の海難事故や、度重なる海の悲劇に対し、英国政府は船の位置を正確に知ることの出来る方法や計器を発明したものに賞金を与えると発表した。そして、時計職人ハリソン(1693-1776)が、30年かけた研究の末、1736年に発明に成功した。この物語に着想を得たグレイアムは、2000年に金管バンド曲「ハリソンの夢」を作曲、2002年に吹奏楽版も出版された。細かい音符の忙しい動きは、ハリソンの工房の様々な機械の動きが表現されたもの。一転、中間部は航海で亡くなった人々への哀歌である。時報を示す8つの鐘の音(1707年の海難事故は夜8時に発生)とハンドベルの音は、この事故で亡くなった海兵隊員の魂が天国へ上っていく様子の表現である。刺激的、かつ幻想的で人気が高い曲だが、演奏の難易度は、史上最高のグレード7(本当は6までしかない)で、極めて高い技術力が要求される曲である。

ピーター・グレイアム

Peter Graham (b.1958:イギリス)

メキシコの祭り

La Fiesta Mexicana

H.O.リードはアメリカ音楽界の巨匠で、管弦楽、吹奏楽、室内楽、合唱など様々な分野で作品を残している。今年で生誕100年を迎えたが、色々調べたところ、どうやら存命らしい。

1948-49年に5ヶ月に渡って、メキシコの民族音楽の現地研究を行ったリードは、1949年にその結果を全3楽章の交響曲にまとめた。祝祭的雰囲気のある素晴らしい作品で、第20回記念の演奏会のメイン曲に相応しい。各楽章の曲想を作曲者自身のメモから抜粋して紹介しよう。

オーウェン・リード

H.Owen Reed (b.1910:アメリカ)

・第1楽章：前奏曲とアステカの踊り

祭りは真夜中に打ち鳴らされる教会の鐘の音から始まる。花火の爆音、高鳴るファンファーレ、人々は次々と集い、ふるまい酒がくみ交わされ、馬鹿騒ぎが始まる。早朝の眠気もこの馬鹿騒ぎで吹き飛ばされ、やがて遠くから村の楽隊による闘牛場の音楽「エル・トロ」が聴こえ、やがて全合奏となる。曲はグアダハラ地方に伝わるアステカ族の踊りへと移る。色鮮やかな羽根飾りをつけ、仮面を被った踊り手が踊りのリズムによって、祭りの気分はいよいよ盛り上がっていく。

・第2楽章：ミサ

教会の鐘の音に始まる敬虔な祈りの楽章。外の騒動とは別に、教会の中では多くの人々によって大きな祈りが捧げられる。過去の1年を感謝し、これからの1年を祈る厳粛で静かなミサで、使われる賛美歌は、チャバラ地方の教会でよく歌われるグレゴリオ聖歌「リベル・ウサリス」からとられたものである。

・第3楽章：カーニヴァル

舞台はふたたび町の中へ。今や祭りは最高潮で、サーカス、闘牛、市場からのざわめきや華やかな楽隊のファンファーレなどで街中が沸き返っている。民謡「エル・ソン・デ・ラ・ネグラ」の調べを聴いたあと、再現部となり、前の楽章で聴かれたフレーズも現れ、祭りの興奮はクライマックスへと突き進んでいく。

あなたがいてくれたから

山崎 燿(郷間幹男・編曲)

人気アイドルグループ AKB48のバラード。グループを卒業した仲間や、ファンに対する感謝の気持ちが込められた曲。今日で2年バンドは解散です。頑張ってきた仲間達と想いを込めて演奏します。

ジョイントコンサート第20回記念作品(初演) 八木澤教司

前回の第19回演奏会のプログラムで告知した、第20回記念の新曲が完成しました。タイトルは部員公募しており、これを書いている時点では決定していません。本番当日、この曲の演奏直前にタイトルを発表予定です。大空へ羽ばたくような躍動的な主部と、美しく歌われる中間部が印象的です。